



市資料館に展示されている志賀和義家文書（里町で）

最後の代官 忠左衛門日記

⑧

主張する尊攘派の長州藩 同町の志賀和義さんが所
に打撃を加えるため幕府 有していた。

は、慶応2年（186 「長州征伐で万一、繁

6）の第2次長州征伐で 蔵が討ち死にした場合に

諸藩に出兵を命じ、農兵 は、故郷にいる家族の面

たちが早速、長州包囲陣 倒をみてあげるから心配

に動員された。 せずに戦ってほしい」と

この時に十倉谷領から という内容のもので、同年

6月の総攻撃に 当たって発行さ

れている。

長州征伐に向け農兵募る

特別展では幕府発行の保証書も展示

しかし、幕府
は長州藩領へ攻

幕末、幕府は軍制改革 領内から派遣したのだ
を推し進めて幕府軍の近 が、あとの3人分は軍に

代化を図る 旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ
が、歩兵と 旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ

なる農兵が 旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ
不足してい 旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ

たため、各 旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ
旗本に石高に応じて領内 直接雇用してもらえよ

から一定の人員を出すよ う金を納めた。
う命じた。農兵には兵服 領内の3人はどうやっ

が貸与され、脇差をさす て選出したのか分かって
ことも出来たという。 いないが、本人が志願し

2千石の十倉谷領も同 たとは考えにくい。 展示されている。

様に6人の農兵を確保す そんな中、開国を進め 繁蔵は十倉領内の金河

るよう求められ、3人は る幕府に抵抗して鎖国を 内村（現在の金河内町）
にいた人物で、保証書は を受け止めたのかは定か
でない。（岡田圭司記者）